工業港灣都市の建設を
若い世代に大きな期待
新春対談

■聞く人（敬称略）
幸町一　飛島良朗（京北海運）
旭町　南憲悦（電々公社）
開運町　室本加代子（無職）

■話す人
留萌市長　橋本作市

司会　青山市民課長

世代は、常に変転していると同時に、清潔な若い力をも、もとめております。こうした中で、今年、成人になられる五八一名（住民登録監調）のもつ、清心の気も新たに大いなる希望と、そして、はちきれる抱負を今後の市政に、新たなるぶきとして受入れ、正しく反映する意欲に燃えるものでありますが、この機会に三名の代表者と、市長さんによつて市政のあるべき姿、将来の問題等について、そのものずばりをお話して頂きたいと思います。

成人のみ[redacted]おめでと

室本さん　市長さんとこうしてお会いするのは、初めてなんですが、私たちが普段考えていたのとは大変こう違うような感じがいたしますが―。

橋本市長　皆さんね、今日五百八十余名の本年成人になられる方を代表して、私とこうしてひざをつきあわせて話しあう機会を持つことが出来ましたことは、非常に私うれしく思つております。

まずお三人に代表して心からおめでとうと申し上げたい。と同時にこれは私があらためて申し上げるまでもないことですが、成人というのは今やもうすつかり心身ともに一人前になり、そして市政あるいは国政に参与する実力をかねそなえた時期に来たのですそれだけに今後一つ皆さんのような若い世代の方たちが、将来のために立派にやつて欲しいと思います。

南さん　大分前に色々とお聞きしたところによりますと、市長さんは大変、タバコがお好きだということなんですが―。

市長　いや―、あのねどうも余りタバコをのみ過ぎるというので、実は昨年半年ばかりやめてみたんです。たまたま生まれて初めて病気らしい病気をしましてなおつてからも、どうも米練がありまして、また飲み始めたのですが、まあ一つ悪るい意味もありますけれど、タバコ消費税の収入増のためと考えたりして、自分のみ過ぎを正当づけています。（笑）

注―（三十四年度に留萌市へ入つたタバコ消費税は一千四百十八万六千円です）

留萌が日本一と[redacted]

飛島さん　この間市長さん上京なされたそうですが、東京ではなかなか大変だつたでしようね。

市長　年に七、八回、多いときは十一回も出ておりますが、東京へ行きましても一日も遊ぶという事がないものですから、一番東京を知らなければならぬ人間がどうもよくわからんという仕事のやりつばなしです。しかしまあ東京は日本一の郊会でもありますし、政治、経済、文化といろいろ学ぶところが多い。

でも、やはりなんといつても自分の生れ故郷が一番なつかしく、又気がかりになり、愛着を持つものはなく、その点留萌は日本一良い所だと考えています。

実人口は四万名い[redacted]

室本さん　十月一日に行われました国勢調査では、五年前と比らべ人口があまりのびていないようなんですが。

市長　これは私たちも考えているんですが、私どもの青年時代はいまの帯広、北見、岩見沢という所よりも釧路について市になるだろうと、当時の北海道の長官や長老の人たちが、私どもに言明していた。また当時の留萌市の勢いから言つても当然早く市になるだろうと思われていたことが決められた人口増ということから現在の二十七市中、十二番目に市になつたわけですしかし、二十九年以降、留萌市経済の大半をなすニシン漁業が凶漁になつたことや、大和田炭鉱の閉山などがあつて、結局差し引き三十年に比らべ十六人より増えなかつたわけでありますが、あゝいうことがなければ、人口が多少増えていたはずなんですね。

しかし調査では三万五千八百十三人でしたが、実人口は四万はあるだろうと考えています。

まあ、経済、文化が振興されることによつて、将来人口は集中するだろうと、私は確心をもつています。

室本さん　今度市になるには人口五万以上なければいけないそうですね。

市長　そういうことになりましたね。しかし北海道で十二番目に市になつた留萌は、全国の市五百余りのうち二百十二番です。その留萌の後に市になつたところでは、単独で市になつたのは少なく、近隣町村の合併などによつて市になるなど人口三万前後の市が相当あるわけです。人口五万以下の市というのは全体の半分位ではないでしようか。

南さん　私たちも人口のことについては、いろいろと聞いていましたが、ただ今の市長さんの話を聞きまして再認識させられました。

市長　やはり人口の問題は市勢の振興と不可分の問題で、あとから問題が出てくるとは思いますが、いずれにしても、企業の誘致の問題とか、あらゆる施策について、更に一層の努力をして行きたいと考えています。

市長の話を熱心に聞く、成人代表たち　―市長室で―

（三面へ続く）

日本海側にはこれといつた企業がありません。そこで留萌の立地を整備して…　―橋本市長―

立地条件[redacted]して企業

飛島さん　いままでも企業誘致が行われていたようですね、例えば、大昭和製紙製塩工場など、ありますがいずれも見送られているようですが、それにはなにか大きな原因があるように思いますが。

市長　大変よいご質問ですね。大昭和製紙の問題にしましても、その前の製塩工場、それにもう一つは岩崎産業など、大きな問題に取つ組んだ経験がありますが一口にいいますと、地理的条件といいますか、立地条件が悪るいんですね。

地下水、工業用水の不足とか、土地が狭いとか色々問題があるわけです。それでは留萌に適した工業を、というわけで、そのためにこの前から留萌市などが立地条件調査を進めています

近くこの結論が出ますので、これに基づいて、中央なり道と相談しまして、いわゆる留萌に適した石炭化学とか木材工業だとか、いろいろ一丸となつて、一生懸命にやつていきたいと考えています。

更に本市としては隣接町村との経済提携を緊密にしてゆき、企業誘致にしましても、三市町村において立地条件の長短を相補うことによつて大企業の誘致も可能となる次第でありますので、これを多角的に協議検討し、すすめて参りたいと思つております。

この機会に申し上げたいと思いますのは、北海道の地図をご覧になつて、南の函館から稚内まで日本海に面した所に、どれ一つとして大企業がありません。

しからば北海道全体はどうかといいますと、道東、道南には大企業が集中しているわけです。

これは一部政治的立場から市町村が運動していますが、むしろ企業体側から北海道に乗り込んで来るという非常に楽な企業誘致をやつているわけです。

それに対して日本海に面する小樽、留萌、稚内、岩内などは、理事者が血のにじむ努力をしているわけです。

ですけれども、立地条件が悪るい、その他の事情で非常な苦労をしているんです。

そこで町村知事などに対しても、北海道の開発を、一方にかたよつたことがあつては困る。あくまでも、均衡な開発をしてほしいといつているわけです。

北海道の大きさは、東北六県に新潟県を合せただけの広大な地域を持つているわけです。

いつか経済学者が、北海道の開発はいまや後進地域ではない。中の段階に属する開発が進められているのだといつていました。

私は、これに対し決して否定するものではありませんが、それだけでよいということは誤まりであると思います。

この広大な地域の開発に均衡の欠かないようにすることが大切である。これを忘れると百年に悔を残すことになると思うのです。

まあ今後留萌の開発、発展ということは既存産業の育成もして行かなければなりませんが、先程申し上げたように留萌に適した産業を興し、市民の福祉向上に尽して行かなければと考えます。

将来に大きな希[redacted]

南さん　北海道は日本のホープであるといわれますがその北海道にも、地域格差が著るしく、留萌も後進的な地域に含まれると思います。

そこで、成人になつた私たち若い年代の者は、私たちの郷土である留萌に、今後どのような希望を持つて行くべきでしようか。

市長　これは私たちに課せられた大きな問題だと思います。

いま私どものやつておりますことは、まず留萌港の整備を急ぐということであります。これはあくまでも近代港湾都市として行くべきであるということです。

三十一年からは前期五年後期五年の計十年という長期計画で国が進めて来た。

これを三十三年に変更して三十三年を基点とする十カ年計画を樹てましたが、今度は三十六年を基点とするというように第一次、第二次、第三次と変わつてきていますが、その計画の内容はそう変わつていません。

留萌の港湾を簡単に説明しますと、先輩の方々がいまの立派な港を作つてくれたのですが、戦後に於ける貨物の吞吐が非常に多くなり、最近では北海道での上昇率は留萌港が一番高いわけです。誠に喜ばしいことです。

そうなると現在の内[redacted]では狭くて、商港としての充分な機能を発揮出来ないと四、五年前から北岸に船溜を作り漁船を集め、漁業関係の施設を一斉その附近に移し、内港、外港をあくまでも商港としての性質を完全に持たせるように進めているわけです。

北岸船溜は一、二年のうちに完成することになつていますが、それでも、なお留萌港の現状からみて、やらなければならぬことがあります。

例えば、北海道の針葉樹が減少し、今後北洋材や南方のラワン材に依存しなければならぬ現状から、その受け入れ態勢を整えるため計画を進め、明年から着工したいと考えています。

また内港が狭いので、外港を碇泊地として生かして行きたいと考えています。

そのためには南、北両岸の防波堤を三百米長くすることも考えています。

それと日本海は、非常に波が荒いため、防波堤が水面から非常に低いわけです。それでは外港が使えないので、そこでかさ上げして波を防ぎ、安全な港にするよう長期計画を樹て努力しているわけです。

一口に申しますと、出来あがつている留萌の港ですから、これをとりあえず整備して行くということが一つと、それから今後の長期計画で、現在の狭い港では当然間にあわなくなりますので、どのような拡充をするかという二本立ての港湾計画を進めているわけです。

また貿易港として指定を受けている留萌港が、今後発展して行くためには、検疫港の指定を受けなければなりませんが、本年は間違いなく指定になるだろうと思います。

その他、高校の問題も、遅くも三十八年度には工業高校一校を作ることもありますし、いろいろの仕事が数限りなくあります。

要するに、留萌市としては、留萌港を中心とする都市計画を進め、将来の工業港湾都市として大きな発展が約束されているわけです。

若い世代[redacted]新しい[redacted]

いずれにしましても、市民みんながお互いに心から協力しあい進めて行く必要があります。

本年成人になられました皆さん方の若い力が、今後の市政に一番必要なことであります。

これを機会に、素直にものごとを考え、行動して留萌の発展に若い力を借して欲しいと思います。

青山課長　大変いろいろとありがとうございました。ではこのへんで―。

❖　❖